

**製品名: Bcr (リン酸化 Tyr360) ウサギポリクローナル抗体****カタログ番号: APRab04315**

研究使用のみ

**概要**

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	人間、ネズミ、サル
標識	非共役
修飾	リン酸化
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

**応用**

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:200-1:1000,ELISA 1:20000-1:40000
分子量	142kDa

**抗原情報**

遺伝子名	BCR
別名	BCR; BCR1; D22S11; Breakpoint cluster region protein; Renal carcinoma antigen NY-REN-26
遺伝子 ID	613.0
SwissProt ID	P11274
免疫原	抗血清は、ヒト Bcr 由来の Tyr360 のリン酸化部位周辺の合成ペプチドに対して産生された。アミノ酸範囲: 331-380

**背景**

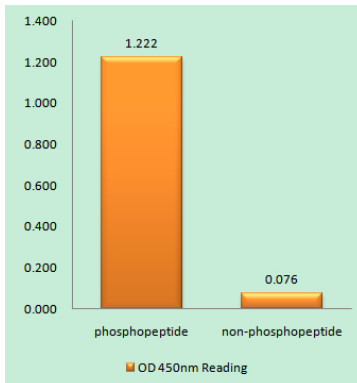
22 番染色体と 9 番染色体間の相互転座により、慢性骨髄性白血病患者によく見られるフィラデルフィア染色体が生じます。この転座

の22番染色体切断点はBCR遺伝子内にあります。この転座により、BCRと9番染色体切断点にある遺伝子ABLの両方の配列によってコードされる融合タンパク質が生成されます。BCR-ABL融合タンパク質は広く研究されていますが、正常なBCR遺伝子産物の機能は明らかではありません。このタンパク質はセリン/スレオニンキナーゼ活性を有し、p21<sup>rac</sup>のGTPase活性化タンパク質です。この遺伝子には、異なるアイソフォームをコードする2つの転写バリエーションが見つっています。[RefSeq提供、2008年7月]、触媒活性：ATP + タンパク質 = ADP + リン酸化タンパク質。、疾患：BCRに関連する染色体異常は、慢性骨髄性白血病（CML）[MIM:608232]の原因です。ABL1との転座t(9;22)(q34;q11)。この転座は、急性骨髄性白血病（AML）および急性リンパ芽球性白血病（ALL）にも見られるBCR-ABLを生成します。、ドメイン：DHドメインはCCPG1との相互作用に参与しています。、ドメイン：ABL1との結合に参与する領域であるSH2ドメインはセリン残基が豊富であり、SH2結合前にSer/Thrリン酸化される必要があります。この領域は、ABL1チロシンキナーゼの活性化と、キメラBCR-ABL癌遺伝子のトランスフォーメーション能に必須である。、機能：RAC1およびCDC42のGTPase活性化タンパク質。RACまたはCDC42に結合したGDPのGTPによる交換を促進し、それらを活性化する。セリン/スレオニンキナーゼ活性を示す。、PTM：自己リン酸化。、類似性：C2ドメインを1つ含む。、類似性：DH（DBL相同）ドメインを1つ含む。、類似性：PHドメインを1つ含む。、類似性：Rho-GAPドメインを1つ含む。、サブユニット：ホモテトラマー。PDZK1と相互作用する。CCPG1と相互作用する可能性がある。、

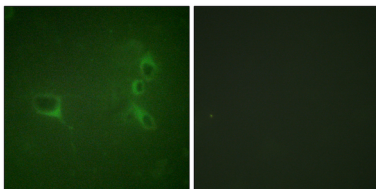
## 研究分野

がんの経路;慢性骨髄性白血病;

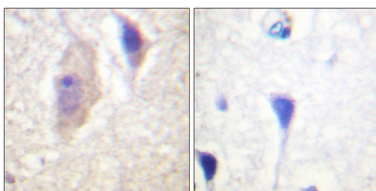
## 画像データ



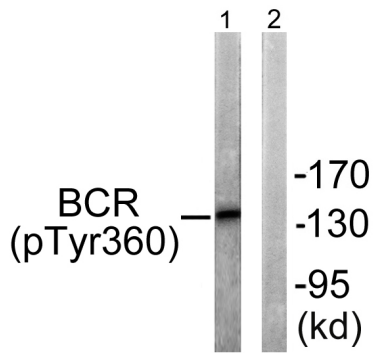
Bcr (リン酸化 Tyr360) 抗体を用いたリン酸化ペプチド (リン酸化左) および非リン酸化ペプチド (リン酸化右) 免疫原の酵素結合免疫吸着測定法 (リン酸化 ELISA)



Bcr (リン酸化 Tyr360) 抗体を用いた NIH/3T3 細胞の免疫蛍光染色。右の写真はリン酸化ペプチドでブロッキングした画像です。



Bcr (リン酸化 Tyr360) 抗体を用いたパラフィン包埋ヒト脳の免疫組織化学染色。右の写真はリン酸化ペプチドでブロッキングした状態。



COS7 細胞ライセートの Bcr (リン酸化 Tyr360) 抗体を用いたウェスタンブロット解析。右レーンはリン酸化ペプチドでブロッキングされている。